

# 地域畜産振興部門

山口県防府市

## 「ふるさと牧場」と支援グループ 「こぶしの里牧場交遊会」(こぶしの会) 「ふるさと牧場」が試みる

### 新しい農山村の結(ゆ)い ～アグロフォレストリー(耕畜林複合)を 里山再生の切り札に!～



こぶしの会メンバー(一部) 前列中央が「ふるさと牧場」山本夫妻

「ふるさと牧場」(代表:山本喜行さん)の経営は、農業(棚田米1.3ha)、林業(山林30haにヒノキ植林9ha、副産物のシキミは直売)、畜産(黒毛繁殖雌牛10頭、子牛8頭)である。妊娠牛は離乳後林間放牧され、牛道を作りつつ、通年下草を食べる。林道を中心にノシバを植えており、広い間伐と放牧効果で良く広がり、砂防効果も高い。毒があるため林床に広がるシキミは、お盆、正月、彼岸に直売所で販売しており、大きな収入源となっている。棚田米は契約栽培が主である。22年度は管理を依頼された条件の悪い棚田では飼料用米の栽培も試みた。有効活用を模索中であるが、いずれも収穫後の棚田で可能なところは放牧し、近隣の耕作放棄地へもレンタカウを派遣している。

このように、日本各地でみられる里山と棚田を地域資源として活用したアグロフォレストリー(耕畜林複合)の営みを、個人から新たな「結い」へ広めている取り組みの特徴は以下の通り。

第1に、林間放牧を活用した複合経営実践と普及では、山本氏のアグロフォレストリー理念と技術を「こぶしの会」活動への参加を通じて学んだ会員が、数年後、岡山県新見市や山口県長門市で新規就農により放牧を開始している。山口型放牧が本事業で畜産大賞を受賞しているが、さらに研究・普及が必要な技術である。

第2に、「こぶしの会」と連携した消費者交

流では、山口大学の林間放牧に関する調査研究とこぶしの花見会をきっかけに結成された「こぶしの会」(平成12年設立、会員15人)が基本となり、「ふるさと牧場」で各種体験交流活動を行っている。会員有志は山本さんの重機や間伐材を使って宿泊可能な「歩知庵」(茅葺交流ハウス)や炊飯施設等を数年かけて建築しながら、一般公募による畜産ふれあい体験や苗づくりから始める田んぼの学校、林業体験などを継続している。山本夫妻と会員のサポートにより本格的な農畜林作業から野外での菓子づくりなど多様な体験内容に、参加する親子の中からリピーターも増え、熱心な参加者発案の新たな体験メニューも試みている。外部集団からの体験依頼や農畜林研修も含め年間来訪は500人以上になる。

第3に、棚田の保全、林業の維持は個人だけでは不可能という危機意識を背景に、こぶしの会メンバーの有志は、重機や農機の扱いを含め、山本さんの棚田作業や石垣積みなどにも積極的に参加するとともに、自己管理の棚田を決め、米生産実習も行っている。

第4に、山本さんと「ふるさと牧場」を支援する「こぶしの会」会員等も含めて、大学、県行政、放牧研究機関、市の林政、NPO法人および地元地域の活動に対する協力姿勢は、ボランティアの域を越えているともいえるほどに、素晴らしいものと評価できる。

# 活動のようす



▲棚田と里山に囲まれた「ふるさと牧場」山本さんの自宅。黒い屋根の上が茅葺交流ハウス



▲小学生対象のふれあい体験で語る山本さん



▲林間放牧の様子



▲田んぼの学校で田植え体験



▲平成 21 年 7 月 21 日豪雨後。ノシバが林道崩壊を防止



▲交流ハウスでクリスマス用お菓子の家作り教室